

BPA とグリホサート - 教訓

BY STEVEN HENTGES, PH.D 2017 年 7 月 10 日 IN INDUSTRY

グリホサートという言葉は聞きなれない名前かもしれませんが、おそらくラウンドアップ® (訳注: 1970 年に米国の Monsanto 社が開発した除草剤の名称。有効成分名はグリホサートイソプロピルアミン塩。) という名前をご存知でしょう。有効成分としてグリホサートを含む効果的で成功を収めた除草剤です。グリホサートもヒト健康にも害を及ぼす可能性があると言われ、論争が続いています。

国際発がん研究機関(IARC)がグリホサートを「おそらく発がん性がある」と分類した疑わしい決定後に、最近グリホサートが話題になっています。昼の後に夜が来るのと同じくらい確実に、カリフォルニア州では警告表示義務が課せられ、被害を受けた多数の原告が日替わりで訴訟を起こしました。

表面上、主にポリカーボネート及びエポキシ樹脂製造に使用される、全く異なる物質である bisphenol A (BPA) とグリホサートは関係がありません。しかし、[Vice.com](#) の Jenny Splitter による洞察力のある記事に概説されているように、BPA はグリホサートにとって重要な教訓を持つ警告的な話を伝えています。

ほぼ 20 年間、体内の正常な内分泌機能を阻害することによって健康に害を及ぼす可能性のある内分泌かく乱物質であるという主張により、BPA は議論的になってきました。BPA が害を及ぼすとのコンセンサスは決してとれておらず、世界中の政府機関は広範な科学的証拠に基づいて、BPA の安全性を強く支持しています。ここ米国では、食品医薬品局(FDA)が「**BPA は安全ですか?**」という疑問に対して、明白に「はい。」と単刀直入に答えています。

それにもかかわらず、一部の製品メーカーは BPA を排除するという公共の圧力に屈し、代替品に切り替えました。論争を避ける方法として、「転ばぬ先の杖」と言う古いことわざがためになることが多いようです。BPA フリー製品について好きにならない理由がありません。

しかし Splitter によると、「今日、市場には BPA フリーのプラスチックがたくさんありますが、消費者は少しも安全ではありません。」その理由は、製品メーカーが BPA を使わなくするのではなく、BPA を何か別のものに置き換える必要があったからです。

現在明らかになっているのは、BPA の代替品があまり研究されておらず、BPA が何十年も享受してきたのと同じ安全性実績がないことです。結局のところおそらく、イソップは正しく理解していたのでしょう。[遺憾な代替](#)を避けるために、「跳ぶ前を見る(石橋を叩いて渡る。)」方がいいかもしれません。

グリホサートの教訓は明らかで、少なくとも、それを排除しようとしている人にとっては明らかです。グリホサートフリーの未来は本当により好ましいのでしょうか？ 依然として雑草を規制しなければならないので、BPAと同じようにグリホサートを使わずに済ませることはできませんでした。

グリホサートがなければ、農家はおそらく他の除草剤を使用するでしょうが、必ずしもよりグリホサートより安全で毒性の低い除草剤とは限りません。もう一度言います。Splitter が指摘するように、「農家がグリホサートを使用するのを止めたら、私たちの食べ物はより安全になりますか？ そうではありません。」

おそらく、BPA とグリホサートから学ぶべき最も重要な教訓は、科学に基づく規制に対する我々の欲求と必要性は、必然的に遅い科学的プロセスを伴うということです。Splitter の締めくくりのコメントで彼女は、「その困難なプロセスを回避し、業界主導のソリューションを選ぶと、その結果は消費者には良いものではありません。私たちが得るのは、厳密な科学的要求事項を満足する事ではなく、消費者の気分を良くするために設計されたものです。」と正しく認識しています。

[Vice.com](https://www.vice.com) の彼女の話は、聞く価値があります。

ビスフェノール A についてもっと知りたい方は、[FactsAboutBPA.org](https://www.factsaboutbpa.org) にアクセスしてください。

